

山元 加津子 先生

石川県特別支援学校教諭/作家・エッセイスト

1957年金沢市生まれ。富山大学理学部卒業。小学校の先生を経て、現在石川県内の特別支援学校教諭。作家・エッセイスト。

平成19年から彼女をテーマにした映画「1/4の奇跡」「宇宙(そら)の約束」が続けて制作され、全国600ヶ所以上、海外25ヶ所以上で自主上映会が開催されている。

また脳幹出血で倒れた親友を病院に尋ねる日々を綴った日記が評判を呼んでいる。

<http://www.mag2.com/m/0001012961.html>

そんな中、病気や障害で意思の伝達が難しい人のために、意思を伝えるためにはいろいろな方法があることを知り、それを広める活動もしている。

<http://ohanashi-daisuki.com/>

著書「きいちゃん」は、平成12年中学校夏休み課題図書、平成14～平成16年度には国語教科書に掲載された。平成18年度から中学校の道徳の副読本にも選定されている。

著書は、「本当のことだから」・「宇宙は今日も私を愛してくれる」・「魔女モナ物語」(以上、三五館)、「さびしいときは心のかげです」(樹心社)、「きいちゃん」(アリス館)、近著は「満月をきれいと言えぬぞ」、「ありがとうの花」(三五館)など多数。

紙屋 克子 先生

筑波大学 名誉教授 (医学博士)

静岡県立大学 大学院看護学研究科教授

略歴

1968年	北海道大学 医学部附属看護学校卒業
～79年	北海道大学医学部附属病院で11年間、臨床看護を实践 (脳神経外科・精神神経科)
1984年	北星学園大学文学部 社会福祉学科卒業
1990年	北海学園大学法学部 法律学科卒業
1994年	同大学 大学院修士課程(法学:医事法・インフォームドコンセント)修了
1985年	医療法人札幌麻生脳神経外科病院 看護部長・副院長
1995年6月	筑波大学 医科学研究科教授 (社会医学系)
2000年	筑波大学 人間総合科学研究科教授 (ヒューマン・ケア科学専攻)
2004-2006年	看護・医療科学類長
2008年3月	筑波大学退職
2008年4月	筑波大学 名誉教授
2009年1月	静岡県立大学学長補佐 (2009年1月～2010年3月) 静岡県立大学大学院看護学研究科 教授

一貫して意識障害患者の看護の实践と研究に取り組み、1973年国際脳神経外科看護学会で意識障害の看護に関する最初の論文を発表し、また、1991年日本看護研究学会において意識障害患者を「重複生活行動障害者」と看護学的に規定することを提唱した。

1992年、NHKスペシャル・ドキュメンタリー「あなたの声が聞きたいー植物人間・生還への挑戦ー」で紹介された看護活動は、医療・看護界のみならず広く一般の人々にも看護の成果と素晴らしさを伝えたことで注目された。現

在も意識障害者への支援活動と実践的な研究に取り組み取り組んでいる。

平成5年度 第27回吉川英治文化賞受賞（意識障害患者に関する長年の看護活動の功績により）

平成18年度 内閣府バリアフリー化推進功労者賞受賞（「ケア付き青森ねぶた」活動に対して）

（医学書院・著者紹介より）

主な著書

「私の看護ノート」	医学書院, (録音図書: 愛知県図書館)
「看護とはどんな仕事か」7人のトップランナーたち	勁草書房(教育選定図書)
「私たちの看護管理実践」	紙屋克子, 住吉蝶子 医学書院(共著) (プロビデンス病院と札幌麻生病院の看護管理)
「Quality of Life-医療新次元の創造-」	日野原重明監修 メディカルレビュー社(共著)
「生・老・病・死を考える15章」実践・臨床人間学入門	朝日新聞社(共著)
「基礎看護学-実践看護技術学習支援テキスト-」	日本看護協会出版会(分担執筆)
「自立のための生活支援技術」	中央法規出版(教育ビデオ全3巻2002年)
「いま、看護を問う」	新日本医学出版社(共著)
「看護の心そして技術」 NHK・課外授業「ようこそ先輩」から	KTC中央出版
「ナーシングバイオメカニクスに基づく自立のための生活支援技術」	ナーシングサイエンスアカデミー
「看護の実践と科学」	メヂカルフレンド社(共著)